

確率解析メモ

百合川

2018 年 4 月 25 日

目次

連続関数の空間の位相

$[0, \infty)$ 上の \mathbb{R}^d 値連続関数の全体を $C[0, \infty)^d$ と表す. $C[0, \infty)^d$ は

$$d(w_1, w_2) := \sum_{k=1}^{\infty} 2^{-k} \left\{ \sup_{t \leq k} |w_1(t) - w_2(t)| \wedge 1 \right\}, \quad (w_1, w_2 \in C[0, \infty)^d)$$

により定める距離で完備可分距離空間となる. 以下, $C[0, \infty)^d$ には d により広義一様収束位相を導入する.

連続関数の空間の Borel 集合族

$n = 1, 2, \dots$, $B \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^n)$, $0 \leq t_1 < \dots < t_n$ により

$$C = \left\{ w \in C[0, \infty)^d ; \quad (w(t_1), \dots, w(t_n)) \in B \right\}$$

と表される $C[0, \infty)^d$ の部分集合 C の全体を \mathcal{C} とおく. このとき, $\mathfrak{B}(C[0, \infty)^d) = \sigma[\mathcal{C}]$ が成り立つ.

証明. $w_0 \in C[0, \infty)^d$ とする. 任意に $w \in C[0, \infty)^d$ を取れば, w の連続性により $d(w_0, w)$ の各項について

$$\sup_{t \leq n} |w_0(t) - w(t)| = \sup_{r \in [0, n] \cap \mathbb{Q}} |w_0(r) - w(r)| \quad (n = 1, 2, \dots)$$

と表現できる. いま, 任意に実数 $\alpha \in \mathbb{R}$ を取れば

$$\left\{ w \in C[0, \infty)^d ; \quad \sup_{r \in [0, n] \cap \mathbb{Q}} |w_0(r) - w(r)| \leq \alpha \right\} = \bigcap_{r \in [0, n] \cap \mathbb{Q}} \left\{ w \in C[0, \infty)^d ; \quad |w_0(r) - w(r)| \leq \alpha \right\}$$

が成立し, 右辺の各集合は \mathcal{C} に属するから 左辺 $\in \sigma[\mathcal{C}]$ となる. 従って

$$\psi_n : C[0, \infty)^d \ni w \mapsto \sup_{r \in [0, n] \cap \mathbb{Q}} |w_0(r) - w(r)| \in \mathbb{R}, \quad (n = 1, 2, \dots)$$

で定める ψ_n は可測 $\sigma[\mathcal{C}]/\mathfrak{B}(\mathbb{R})$ である. $x \mapsto x \wedge 1$ の連続性より $\psi_n \wedge 1$ も $\sigma[\mathcal{C}]/\mathfrak{B}(\mathbb{R})$ -可測性を持ち,

$$d(w_0, w) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{2^n} (\psi_n(w) \wedge 1)$$

により $C[0, \infty)^d \ni w \mapsto d(w_0, w) \in \mathbb{R}$ の $\sigma[\mathcal{C}]/\mathfrak{B}(\mathbb{R})$ -可測性が出るから, 任意の $\epsilon > 0$ に対する球について

$$\left\{ w \in C[0, \infty)^d ; \quad d(w_0, w) < \epsilon \right\} \in \sigma[\mathcal{C}]$$

が成り立つ. $C[0, \infty)^d$ は第二可算公理を満たし, 可算基底は上式の形の球で構成されるから, $\mathfrak{D}(C[0, \infty)^d) \subset \sigma[\mathcal{C}]$ が従い $\mathfrak{B}(C[0, \infty)^d) \subset \sigma[\mathcal{C}]$ を得る. 次に逆の包含関係を示す. いま, 任意に $n \in \mathbb{Z}_+$ と $t_1 < \dots < t_n$ を選んで

$$\phi : C[0, \infty)^d \ni w \mapsto (w(t_1), \dots, w(t_n)) \in (\mathbb{R}^d)^n$$

により定める写像は連続である. 実際, w_0 での連続性を考えると, 任意の $\epsilon > 0$ に対して $t_n \leq N$ を満たす $N \in \mathbb{N}$ を取れば, $d(w_0, w) < \epsilon/(n2^N)$ ならば $\sum_{i=1}^n |w_0(t_i) - w(t_i)| < \epsilon$ が成り立つ. よって ϕ は w_0 で連続であり (各点連続)

$$\mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^n) \subset \left\{ A \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^n) ; \quad \phi^{-1}(A) \in \mathfrak{B}(C[0, \infty)^d) \right\}$$

が出る. 任意の $C \in \mathcal{C}$ は, $n \in \mathbb{N}$ と時点 $t_1 < \dots < t_n$ によって決まる写像 ϕ によって $C = \phi^{-1}(B)$ ($\exists B \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^n)$) と表現できるから, $\mathcal{C} \subset \mathfrak{B}(C[0, \infty)^d)$ が成り立ち $\sigma[\mathcal{C}] \subset \mathfrak{B}(C[0, \infty)^d)$ が得られる. ■

次の事柄は後の定理の証明で使うからここで証明しておく。

定理 0.0.1 (\mathcal{C} は乗法族である). \mathcal{C} は交演算について閉じている。

証明. 任意に $A_1, A_2 \in \mathcal{C}$ を取れば, A_1, A_2 それぞれに対し $n_1, n_2 \in \mathbb{N}$, $C_1 \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^{n_1})$, $C_2 \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^{n_2})$, $t_1 < \dots < t_{n_1}$ それから $s_1 < \dots < s_{n_2}$ が決まっています,

$$\begin{aligned} A_1 &= \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(t_{n_1})) \in C_1 \right\} \\ A_2 &= \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(s_1), \dots, w(s_{n_2})) \in C_2 \right\} \end{aligned}$$

と表されている. A_1, A_2 の時点に重複があるかないかで場合分けして示す.

時点に重複がない場合 集合を次のように同値な表記に直す:

$$\begin{aligned} A_1 &= \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(t_{n_1}), w(s_1), \dots, w(s_{n_2})) \in C_1 \times (\mathbb{R}^d)^{n_2} \right\} \\ A_2 &= \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(t_{n_1}), w(s_1), \dots, w(s_{n_2})) \in (\mathbb{R}^d)^{n_1} \times C_2 \right\} \end{aligned}$$

表現を変えれば乗法を考えやすくなり, 上の場合は

$$A_1 \cap A_2 = \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(t_{n_1}), w(s_1), \dots, w(s_{n_2})) \in C_1 \times C_2 \right\}$$

と表現できる. t_1, \dots, s_{n_2} の並びが気になるなら, この時点の並びを昇順に変換する $(dn_1 + dn_2) \times (dn_1 + dn_2)$ 行列 J_1 を用いて (J_1 は連続, 線型, 全単射),

$$\begin{aligned} A_1 \cap A_2 &= \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid J_1 w \in J_1(C_1 \times C_2) \right\} \\ (w &= {}^T(w(t_1), \dots, w(t_{n_1}), w(s_1), \dots, w(s_{n_2}))) \end{aligned}$$

とすれば, $J(C_1 \times C_2) \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^{n_1+n_2})$ であるから, $A_1 \cap A_2 \in \mathcal{C}$ であることが明確になる.

時点に重複がある場合 $(r_{k_1}, \dots, r_{k_l}) \subset (t_1, \dots, t_{n_1})$ が重複時点であるとき, A_1, A_2 の同値な表記は次のようにすればよい:

$$A_1 = \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(r_{k_1}), \dots, w(r_{k_l}), \dots, w(t_{n_1}), (s_1, \dots, s_{n_2} \text{ から } r_{k_1}, \dots, r_{k_l} \text{ を抜いたものを並べる})) \in C_1 \times (\mathbb{R}^d)^{n_2-l} \right\}$$

$$A_2 = \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(s_1), \dots, w(r_{k_1}), \dots, w(r_{k_l}), \dots, w(s_{n_2}), (t_1, \dots, t_{n_1} \text{ から } r_{k_1}, \dots, r_{k_l} \text{ を抜いたものを並べる})) \in C_2 \times (\mathbb{R}^d)^{n_1-l} \right\}$$

A_2 について, 条件中の時点の並びを変換し A_1 の条件の順番に合わせる行列 J_2 (連続, 線型, 全単射) を用いて

$$A_2 = \left\{ w \in C[0, \infty)^d \mid (w(t_1), \dots, w(r_{k_1}), \dots, w(r_{k_l}), \dots, w(t_{n_1}), (s_1, \dots, s_{n_2} \text{ から } r_{k_1}, \dots, r_{k_l} \text{ を抜いたものを並べる})) \in J_2(C_2 \times (\mathbb{R}^d)^{n_1-l}) \right\}$$

と書き直せば, $A_1 \cap A_2$ は前段の様に表現可能であり, 前段と同様に最後に時点を昇順に変換する行列を用いることで $A_1 \cap A_2 \in \mathcal{C}$ となることが明確に判る.

連続関数の空間に値を取る確率変数

$\omega \in \Omega$ に \mathbb{R}^d 値連続確率過程 X のパスを対応させる写像

$$X_{\bullet} : \Omega \ni \omega \mapsto (t \mapsto X_t(\omega)), \quad (t \geq 0)$$

は可測 $\mathcal{F}/\mathfrak{B}(C[0, \infty)^d)$ である.

証明. 任意に $C \in \mathcal{C}$ を取れば $C = \{ w \in C[0, \infty)^d ; (w(t_1), \dots, w(t_n)) \in B \}$, ($B \in \mathfrak{B}((\mathbb{R}^d)^n)$) と表されるから

$$\{ \omega \in \Omega ; X_{\bullet}(\omega) \in C \} = \{ \omega \in \Omega ; (X_{t_1}(\omega), \dots, X_{t_n}(\omega)) \in B \}$$

が成り立つ. 右辺は \mathcal{F} に属するから

$$\mathcal{C} \subset \{ C \in \sigma[\mathcal{C}] ; (X_{\bullet})^{-1}(C) \in \mathcal{F} \}$$

が従い, 右辺は σ 加法族であるから X_{\bullet} の $\mathcal{F}/\sigma[\mathcal{C}]$ -可測性, つまり $\mathcal{F}/\mathfrak{B}(C[0, \infty)^d)$ -可測性が出る. ■